

美波町医療保健センター基本設計業務公募型プロポーザル二次審査講評

美波町初となる公募型プロポーザルの公開ヒアリングには、町内外から建築関係者や町民の方々に参加をいただき、一次審査を通過した5組のプレゼンテーションと質疑応答を長時間にわたり最後まで熱心に見守っていただきました。ありがとうございました。二次審査では、各発表者から技術提案書をもとにイメージ図などを交えた説明を行っていただき、一般の方々にも大変分かりやすいものとなったのではないのでしょうか。ご提案いただいた方々には、限られた期間の中で非常に多くの課題に対してご検討いただき、プレゼンテーションへの準備などを含め深く感謝いたします。

審査会では、様々な視点から長時間にわたる議論の末に、最優秀者として「有設計室」の提案を選出することにいたしました。次点の優秀者については、「有限会社kwhgアーキテクト」の提案を選出することにいたしました。

5つの提案は、美波町あるいは医療保健センターのあり方に対してのそれぞれの視点を元にまとめられた、独自の特徴をもったものでした。防災面への配慮など美波町が求める施設としての実現可能性について長時間にわたる議論を経て、特に、地域に対する明確な取り組みを評価して最優秀者が選出されました。町民及び町スタッフと共に歩むことのできる熱意・可能性ある設計者を選ぶことが、最終的な議論の中心となったことを報告させていただきます。

最優秀案となった「有設計室」案は、防災面に配慮した開放型のピロティと中庭という明解な構成で、ピロティ部分に多目的な役割を持った活動的な場が提案されていることが注目されました。また、多くの人々を巻き込めながら進める地域に密着した設計プロセス（サテライトオフィスなど）の提案に、熱意・可能性が強く感じられたことも評価されました。一方で、グラウンド側からの外観や空間的な繋がり、ピロティに人を引込む仕掛けづくりの可能性についての課題が議論されました。

優秀案の「有限会社kwhgアーキテクト」案は、地域における施設のあり方への明確な考え方や地域と共に考えていく姿勢が印象的で、また、色々な場が柔らかく関係をもつ空間構成的にも大変魅力ある提案であることが評価されました。しかし、提案内容と外観イメージに差異を感じる点やピロティ下の立体公園の活用形態などについて議論されました。

「株式会社アプルデザインワークショップ」案では、美波町では高い位置から見下ろされる視点が大事であるとの重要な指摘を元にしたトップライト群の提案が注目されました。

計画全体としては、大変現実的にまとまっている一方でプランが形式的すぎるといった意見もあり、ピロティ部分やあわせ広場の利用に対する仕掛け、ワークショップの手法などについて議論されました。

「アトリエ・シムサー級建築士事務所」案は、親しみのある景観に配慮した計画として高く評価され、建築コストなどの面からも実現性が高いと感じられました。一方で、防災面への配慮についての困難さが課題となりました。景観への配慮は他の4案にはない魅力でもあり、柔軟な対応姿勢が感じられた案の見直し（津波被災への対応）の可能性について議論されました。

「有限会社エヌ、イー、ユウ総合計画事務所設計共同体」案は、堤を利用した観客席など周辺施設と調和したアイデアが注目されました。しかし、堤の実現性や堤ができるまでの間の施設の状況が課題として指摘され、また堤により周辺地域への津波被災が変化することが懸念されました。ピロティ下の環境や日々の中庭の活用についても議論されました。

美波町の皆様には、今回選ばれた設計者の方々と共にワークショップなどの意見交換の場を重ね、多くの町民に利用、愛され、日々の生きがい交流空間として活用される地域の施設として実現されるように、柔軟かつ積極的に取組んでいかれることをお願いいたします。

今回の審査では、山中委員、北森委員、杉本委員、山路委員の真摯で積極的な審査姿勢に御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、提案してくださった方々、公開ヒアリングに参加くださった方々に、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

美波町医療保健センター基本設計業務公募型プロポーザル審査委員会
委員長 曾我部 昌史